

# 園行事参加型＋講演会型＋子育てサロン型（幼稚園）

学校名等	神戸町立北幼稚園
実施日時	6月2日(土) AM9:50～11:00
会場	神戸町立北幼稚園 遊戯室
参加人数	110名
学習課題(分野)	子育て
運営者の願い	毎日、慌ただしく子育てをしている保護者にとって、子どもへの上手な言葉がけや褒め方については、クラス懇談会の中で、子どものしつけに対して、どう声かけや接していけばいいのか悩んでおられるお母さんが多くおられました。そこで、子どもへの言葉がけの仕方について、講演とグループでの実践を通して、子育てについて改めて考えてもらいたいと企画しました。

## 学 習 の 内 容

### <案内文より>

講師 親業インストラクター 松尾 千景先生

テーマ 「子どもに愛が伝わっていますか」

～ほめ上手、叱り上手な親の接し方～

- ・子どもの行動にイライラ...  
そんな時どうすればいい？  
子どもとより良い親子関係を築くための  
コミュニケーション方法を考えてみましょう。



### <講演より>

#### ①子どもの気持ちを受け止めるには・・・

「あいづち」「くりかえし」「言い換える」「気持ちをくむ」という方法で、実践できる。

「泣く」「怒る」「すねる」「嫌い」などを言う感情は、健康に生きている証拠。

出てくる感情を止めない。子どもが話してくれるまで待つ。話を聞く。(能動的な聞き方)

※子どもが自分で考え、その責任を自分で取ることができることを信じること。

※自己表現力を上げる。

#### ②親の気持ちを伝える

あなたメッセージ「あなた、～しなさい」⇒言われないとやらない子(指示待ち子になる)

わたしメッセージ「わたし、～してくれると助かるなあ」⇒大人が自分語る(自分で考え行動する子になる)

※その行動に対して、「誰がどうして困るか」を伝える。指示しない。

※主語をわたし目線で伝える。自立心を育てることにつながる。

#### ③子どもとの関係を深める

子どもの行動の良いところ、親から見て嬉しいところを、言葉に出して子どもに伝える。

子どもの良い行動を「嬉しいな」「頼もしいな」「大好き」といった肯定的な思いを言葉に出して言う。

「自分は、出来る」「自分は、愛されている」「自分は、生きていてうれしい」「自分は、親や世の中に受け入れられている」⇒子どもの『生きる力』を育てる。

※親の価値観や子どもに身につけてほしいことを、私を主語にして伝えるのが良い。

### <講演を終えて>

- ・我が子のことは、愛しているのに上手く伝えられていない気がする、などの悩みに直面した時、少し親の言葉がけや接し方、伝え方を変えていくことで、子どもも変わっていく。また、子どもへの見方が、変わっていく。自分の接し方を見直すきっかけとなった講演でした。
- ・親業のことは、聞いたこともあり知っていたが、なかなか実践していくことに難しさを感じたりしていました。実践では、隣の人が、子ども役になってもらえて、自分の言葉のかけ方で相手がどう思っているのかを、子ども役の方が、言葉で返されたことで、自分の子どもは、きっとこんなふうに思って傷つけてしまっていたのかなと思える能動的な言葉かけを心がけていこうと思った。また、素直に「ありがとう」「大好き」という言葉をかけていきたいと思えました。



親業訓練講座は、アメリカの臨床心理学者 トマス・ゴードン博士〔1918～2002〕によって始められた親子関係を改善し温かく健全な家庭を築き、子供の健やかな成長を実現するためのトレーニングである。

その親業として、子どもへどんな言葉がけが良いのかを改めて考えることができた。



隣の席の人と子ども役、親役になり、自分の思いを伝え合う練習をしたり、子どもの良いところをお互いに発表しあったりした。その時の気持ちやどんな言い方が相手にとって素直に受け入れられるのかなど実践することで、日頃の自分の感情や行いを客観的に捉えることができ良かった。